

御母衣ダム

御母衣ダムは、現在の白川村の南端に聳える。その土台部分に水力発電所を有する御母衣ダムは、工業都市である名古屋と周辺の中中部地域に電力を供給している。莊川に位置するこのロックフィルダムは、高さ131メートル、厚さ56メートルあり、1960年の完成時にはこの種の建造物としてアジアで最大のものだった。ダム地点の真下、地中には複数の断層線があるということが意味していたのは、このロックフィル構造の方がコンクリートよりも適しているということだった。このダムの建設で、御母衣ダムができた。それによって、3つの地域コミュニティが水中に沈み、住民たちは居を移さなければならなかった。水底に沈んだ寺院にあった2本の桜の木は、湖の西側、現在の莊川桜公園へと移植された。桜の木はそこで、この地域の過去を思い出させるものになっている。かつての村の名残は、水位が最も低くなる春には、ダムの上の国道156号からも見える。来訪者は、ダムの上を歩くこともできる。そこからの、白川郷の方角の下流、そして湖に向かっての眺めは両方とも、秋にはとりわけすばらしい景色だ。ダムファンの人々は、ダムサイドパークの博物館に興味があるかもしれない。博物館では、御母衣ダムがどのように建設され、現在どう使用されているかが説明されている。